

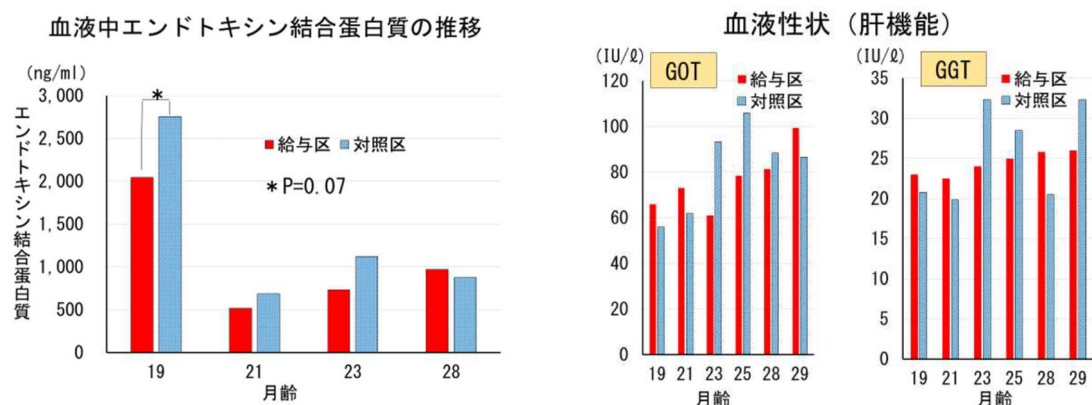
演題 「黄土粘土（ウシキン） 給与が肝臓病の予防になるか」

発表者 畜産専攻 豊嶋亮良

要約

濃厚飼料多給や飼料の急変により第一胃内で発生するエンドトキシン（内毒素）は肝機能障害などの疾病を発症させる。黄土粘土（ウシキン）はカビ毒を吸着することからエンドトキシンを吸着する可能性が考えられた。そこで、黄土粘土給与が肥育牛の第一胃内性状と肝機能障害発生に影響するかどうかを検討した。

但馬牛去勢肥育牛 8 頭を用い、ウシキン給与区（4 頭）と対照区（4 頭）に分け、給与区にはウシキン 100 g を 11 カ月齢から出荷まで毎日給与した。濃厚飼料摂取量の増加に伴い、第一胃液 pH の低下と、それに伴うエンドトキシン濃度の増加が見られたが、給与区が対照区より少ない傾向にあった。また、19 カ月齢の血液中エンドトキシン結合蛋白濃度は給与区が対照区より低い値となった。さらに、血液中 GOT と GGT は給与区が対照区より低い傾向を示した。これらのことからウシキンが第一胃内で発生したエンドトキシンを吸着除去し肝機能障害を軽減すると考えられる。





ウシキン関係者

- ・ウシキン提供 (株) 祐佳クレイ 前川社長
 - ・企画と抗体検査 (株) 微生物化学研究所 岡様
 - ・エンドトキシン測定 農研機構 櫛引様
 - ・胃液検査 淡路農業技術センター 生田、石川様
- そして先生方、2年生、1年生ご協力ありがとうございました